

株式会社デジタルガレージ様

株式会社デジタルガレージはコンサルティング、Webサイト開発、システム開発、プロダクト販売、サービス運営、リサーチ、広告プロモーションなど幅広い分野でサービスを行っている企業です。

クライアントもメーカー、大手通信会社、大手金融会社など多岐にわたっており実績を積み重ねています。

今回は『アリエル・エアワン・プロジェクトA』を用いてシステム開発のプロジェクトを運営するITコンサルタントの浅香氏と佐藤氏にお話を伺いました。

会社名：株式会社デジタルガレージ

所在地：東京都渋谷区

設立：1995年8月17日

資本金：13億4,021万円(2004年3月現在)

社員数：合計48名(2004年2月末現在)

URL：http://www.garage.co.jp/

事業内容：コンサルティング、Webサイト開発、システム開発、プロダクト販売、サービス運営、リサーチ、広告プロモーション



ユーザーコメント

- 「同時進行する複数プロジェクト」を支える情報共有の仕組みが欲しかった。
- プロジェクトが立ち上がったから情報共有がスタートするまでの時間を短縮。
- 一般的グループウェアにできない外部とのセキュアな情報共有ができる。
- 導入面、コスト面、運用面あらゆる点からプロジェクトAだった。
- 通常のサーバー型グループウェアを2つ運用しているのに匹敵。
- ファイル検索に要していた時間が本来の業務に向けられる。



デジタルガレージ制作技術本部 佐藤匡彦氏(左)と浅香保光氏(右)

導入目的1

「同時進行する複数プロジェクト」を支える情報共有の仕組みが欲しかった。

浅香氏の部署では新規システムの構築をプロジェクトタスクとして遂行しています。このプロジェクトではお客様とのやりとりのほか、開発協力会社との情報共有が不可欠となってきます。共有している情報は、プロジェクトメンバーの「スケジュール」「プロジェクト進捗管理情報」「お客様の要件書」「開発仕様書」など、システム構築に必要なファイル全般です。

もっとも、複数のプロジェクトが同時進行し、プロジェクトごとにメンバーが異なり、メンバーも外部のパートナー企業の方が複数参加されます。

このことからサーバー型のグループウェアは、プロジェクト毎にサーバーを立てる必要があり、外部から接続できる環境を保守する必要があるなど、管理が煩雑になるので、ミーティングスケジュール等のやりとりはメール、ファイルの共有はバイク便やWebサービスを利用していました。

このように、プロジェクトの推進に伴うスケジュールの共有とファイルの管理には常に多くの課題がありました。

「スケジュールを複数人で共有するため当初から情報共有ツールは模索してきました。通常のサーバー型の情報共有システムではサーバーを外部から接続できる環境に置かねばならず、セキュリティ上の問題など管理運用面に不安があったことや、ASP型の情報共有システムでは情報共有を図りたい対象ごとにアカウントを取らねばならず運用コストがかかる点、またログインアカウント、パスワードが複数になるため運用上手間がかかってしまう点などが問題でした。(浅香氏)」

導入目的2

プロジェクトが立ち上がったから情報共有がスタートするまでの時間を短縮。

「また、ファイル共有に関してはサーバーで行える範囲では行っていました。その運用は、ファイルサーバーを外部から接続できる状態に設定して、情報共有を行う相手のIPアドレスを教えてもらってそのアドレスのPCからのみ接続できるようにする」とともにFTPクライアントツールを設定するなど、実際のプロジェクトに関わる情報共有を始めるまでに数々の設定を行うことが必要でした(佐藤氏)」

そして、「それぞれの担当者レベル業務で更新したファイルは管理していくのが非常に困難で、どれが最新のファイルかわからなくなり、いつの間にか埋もれていく傾向もみられた(佐藤氏)」といった問題もありました。

あくまでもプロジェクトを進めることが目的であり情報共有の管理というのは手段にすぎません。そこで、浅香氏、佐藤氏は情報共有のための新たなツールを検討されました。

導入までの流れ

従来の情報共有の問題点

- ・1日に大量のメールのやりとりが発生、情報検索だけでも大変
- ・どれが最新のファイルかわからなくなる。

サーバー型情報共有では

- ・サーバーを外部から接続できる環境に置かなくてはならない。[セキュリティ対策、管理面の労力]
- ・運用上の規制が多い

ASP型情報共有ツールでは

- ・メンバー毎にアカウント取得が必要
- ・複数のログインアカウント、パスワードの管理が発生

他のP2P型情報共有ソフトでも

- ・高いスペックのPCを要求
- ・導入コストが高い

『アリエル・エアワン・プロジェクトA』にすると

- ・サーバー管理・運用の手間も特別な設定もなしに情報共有がスタートできる。
- ・最新の情報がいつでもどこでも、すばやく取得できる。
- ・必要なメンバーのみと情報共有できる。

一般的なグループウェアとはココが違う!

外部とのセキュアな情報共有

当社では、全社的な情報共有のツールとしてサイボウズ製品を利用しています。ですが、このグループウェアは社内のイントラネットのみでの利用としており、社外(外出先、自宅など)からは閲覧できない構成となっています。また、社内文書の閲覧なども行っている為、外部の方をサイボウズ上に参加させない(ユーザアカウントを作成しない)のが基本方針です。外部の方を含んだプロジェクトのための情報共有は、プロジェクトAに任せています。(佐藤氏)

Ariel Pro AirOne

選定理由

導入面、コスト面、運用面
あらゆる点からプロジェクトAだった。

「どうしてもメールやファイルサーバーによる運営を行うと、データの送受信が煩雑となり、下手をするとスケジュールを調整するだけ、最新ファイルを検索するだけでも相当な時間がかかってしまい、本来やるべき仕事に影響を及ぼす事態まで発生してしまいます。また、サーバーを利用する際には、システム管理者への許可を得たうえでルールのもと、ファイル共有を行わなくてはならないし、サーバーの運用という面でも面倒な事が多いのが実状です。

以上の問題点を解決するため、Webで検索するなどして色々を探してみると『アリエル・エアワン・プロジェクトA』と同様の仕組みによる情報共有ツールが見つかり、そちらも試用してみました。しかし、「金額面や、要求されるPCのスペックが高く画面の表示などに時間がかかった点に納得がいきませんでした。金額面も問題であったためフリーのツールなども試行してみましたがやはり、サーバーの管理・運営に人手がかけられない点などで断念いたしました。

そのような時、『アリエル・エアワン・プロジェクトA』の存在を知り、試用してみました。すると、スケジュール、ファイルの共有に関し、手間のかかる特別な設定無しにインターネットを通じてセキュアに情報を共有できたことから、大きな魅力を感じました。その後、検討を重ねた結果、コスト面、操作性、管理・運営といった点を全てクリアし、また、情報共有を図りたい人の居場所を問わずに情報共有できることから『アリエル・エアワン・プロジェクトA』導入を決定しました。(浅香氏)

パフォーマンス

通常のサーバー型グループウェアを
2つ運用しているのに匹敵。

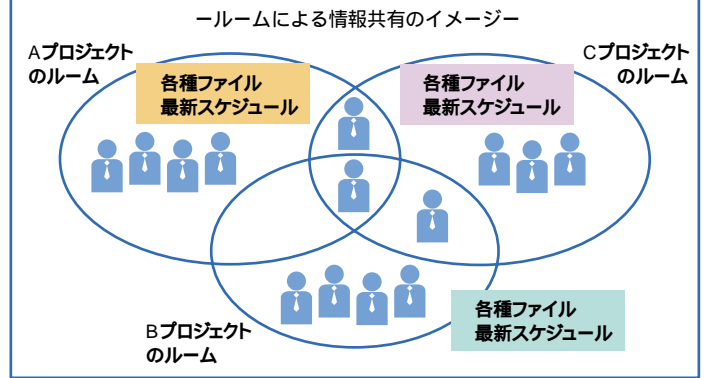
「情報共有は、ルームという単位で行うわけですが、『アリエル・エアワン・プロジェクトA』は複数のルームが作成できます。1本で複数の対象の方と情報共有できる点がすばらしいと思います。

複数企業にまたがるプロジェクトメンバー構成であり、多人数いることからミーティングする際には、以前はそのスケジュールリング、スケジュールの確認が非常に困難でした。しかし、『アリエル・エアワン・プロジェクトA』を用いてからは複数企業にまたがる全員が同じスケジュールを確認できることからミーティングが確実に進めるようになっていきます。

現在、プロジェクト関係会社がそれぞれの専用ルームを作成して情報共有を図っています。

プロジェクト毎にルームを作成し、プロジェクト内の情報はそちらで共有。私自身のスケジュールは各プロジェクトを跨いで共有され、いつでもどのプロジェクトメンバーでも私の最新スケジュールを確認する事ができます。また、グループウェアにアップロードされた最新のファイルは、いつでもどこでも簡単に、すばやく取得する事も可能になります。(佐藤氏)

必要なメンバーと必要な情報だけを共有できる



『アリエル・エアワン・プロジェクトA』では、社内プロジェクトメンバーとの情報共有ルームとお客様との情報共有ルームという形でお客様にはお見せできない情報もプロジェクトメンバーのみと情報共有を図ることが可能です。

これは通常のサーバー型のグループウェアを2つ同時に運営しているのと同じであり、情報共有の対象が増えれば増えるほど『アリエル・エアワン・プロジェクトA』のコストメリットは増します。

業務革新

ファイル検索に要していた時間が
本来の業務に向けられる。

またデジタルガレージ様では「従来欲しい情報を得るために検索のみに費やされていた時間などが短縮されより業務が効率的に行えるようになりました」との評価も頂いています。

簡単に複数企業間でセキュアな情報共有ができ、また以前はそれが「当然のように思えた検索に費やしていた時間が短縮され、情報伝達の確実性が増加された(浅香氏)」といった導入効果を確実に感じ取って頂いています。

「『アリエル・エアワン・プロジェクトA』は多くのプロジェクトを掛け持つ方、多くの関係者(特に社外の方との連携)が存在する方にはお勤めの情報共有グループウェアだと思います。(佐藤氏)」

プロジェクトを支える情報共有の中心手段として期待

デジタルガレージでは『アリエル・エアワン・プロジェクトA』を今後は仕事における情報共有手段の中心的手段として位置付けることが出来ないかを模索して頂いております。「今後の利用方法に関してはアリエルの利用できる機能によって変わってくると思いますので期待しております。メッセージや、ソート機能、ワークグループノードのファイルサーバー的な役割転換など利便性がよくなればなるほど、お客様も増加するかと思います。(佐藤氏)」

「社内のみならず外部とのセキュアな情報共有が簡単にできる点が『アリエル・エアワン・プロジェクトA』の大きな特徴となっていますが、メールや、電話は世の中から利用されなくなるとは今のところ思いません。しかし、メッセージ機能等が増えれば、アリエルをコアとしてプロジェクトがより円滑に進められるかと思います。(浅香氏)」

製品に関する最新情報、資料請求、お問合せ、オードモ、
無料試用版はホームページをご覧ください。

<http://www.ariel-networks.com/>

記載された社名、各商品名は各社の登録商標または商標です。